

# ドナルド・キーン・センター柏崎

連続講座

## ～『源氏物語』と紫式部～

講師 : 実践女子大学 下田歌子記念女性総合研究所 久保貴子

場所 : ドナルド・キーン・センター柏崎 1階大型映像ホール

講座内容: (全5回 各13:30～15:00(90分))

- |          |     |   |
|----------|-----|---|
| 5/4(土)   | 第一回 | ようこそ『源氏物語』の世界へ                          |
| 7/6(土)   | 第二回 | 紫式部は見た! 宮廷生活の舞台裏-前編-                    |
| 9/7(土)   | 第三回 | 紫式部は見た! 宮廷生活の舞台裏-後編-                    |
| 11/ 2(土) | 第四回 | 原文で読んでみよう! -桐壺巻、若紫巻                     |
| 12/14(土) | 第五回 | 語り継ぐ『源氏物語』の系譜<br>～アーサー・ウエーリからドナルド・キーンへ～ |

参加料 : 無料(入館料は必要です) 定員 50名

申し込み : ドナルド・キーン・センター柏崎 10:00～17:00 (月・火休館)

Tel・Fax 0257-28-5755

『源氏物語』は、キーン先生が日本文学を研究するきっかけとなった作品です。奨学金を得て、コロンビア大学に16歳で入学し、18歳の秋に『源氏物語』に出会いました。

「やがて私は、『源氏物語』に心を奪われてしまった。アーサー・ウエーリの翻訳は夢のように魅惑的で、どこか遠くの美しい世界を鮮やかに描き出していた。私は読むのをやめることができず、時には後戻りして細部を繰り返し堪能した。私は『源氏物語』の世界と自分のいる世界とを比べていた。物語の中では対立は暴力に及ぶことがなかったし、そこには戦争がなかった。(中略)源氏は深い悲しみというものを知っていて、それは彼が政権を握ることに失敗したからではなく、彼が人間であってこの世に生きることは避けようもなく悲しいことだからだった。

私はそれまで、日本は脅威的な軍事国家だとばかり思っていた。広重に魅せられたことはあっても、日本は私にとって美の国ではなくて中国への侵略者だった。李(注:中国の友人)は手厳しい反日派だった。ニューヨークの万国博覧会に行った時、様々な外国のパビリオンを訪ねたが、李は日本のパビリオンに入ることは断固拒否した。李と李の祖国に同情はしたものの、だからといって私が『源氏』を楽しむのをやめたわけではなかった。いや、「楽しむ」というのは正確ではない。私は、自分を取り巻く世界の嫌なものすべてから逃れるために、この本のページを開いたのだった。」

『ドナルド・キーン著作集 第十巻 自叙伝決定版』